岡山 史料ネット Newsletter Vol. 10 2023. 9

新しい活動拠点でのボランティア作業

活動報告（2023 年 3 月～ 2023 年 8 月）

1．活動場所の移転

事務局のある岡山大学津島キャンパスの施設整備工事の一環として、3 月下旬に引っ越し作業を行いました。新しい場所など詳しくは最後のページをご覧ください。

2．被災資料修復・整理活動

5 月に新型コロナウィルス感染症の感染症法上の分類が見直されました。これをうけて、5 月 31 日・6 月 28 日に久し振りにボランティアを募るかたちで H 家文書の洗浄・乾燥作業を進めることができました。それぞれ 4 名の方が参加されました。洗浄作業の完了まであとひといきというところです。

また、ボランティア募集の再開について山陽新聞から取材を受け、7 月 3 日付で記事にしていただきました。

3．岡山市災害ボランティア展

岡山史料ネットが加盟している岡山市災害ボランティアネットワークが 7 月 27 日・28 日に岡山市役所本庁舎で開催した「災害ボランティア展」に昨年度に引き続いてポスター展示を行い、2022 年度の活動内容について紹介しました。

4．2023 年度総会・活動報告会

8 月 5 日に県立美術館講座室で 2023 年度総会・活動報告会を開催しました。総会では、昨年度の活動実績や今年度の運営方針などについて審議・承認されました。

総会に続く活動報告会では、「地域の歴史を掘り起こす―ひと・まち・たてもの―」として、元 NHK ディレクターで岡山空襲展示室学芸員の村上裕康さんから、映像や証言などを掘り起こした番組企画やそこでの取材活動の様子、また現在関心を持っておられる旧岡山放送局の保存と活用などを切り口として、これまでのご自身の取り組みなどをお話しいただきました。事務局がコメントしたのち、質疑応答しました。詳細は次頁をご覧下さい。活動報告会の参加者は 25 名でした。

（文責・松岡弘之）

地域の歴史と向き合い続けて

村上裕康（元ＮＨＫディレクター）

ＮＨＫで 32 年間、うち最後の 6 年間は出身地の岡山で番組制作をしてきた。学生時代は歴史を専攻しており、全国の放送局でニュースリポートやスポーツ中継、災害報道と向き合いながら、歴史を題材にした番組を作りたいと常に模索していた。そんな筆者が、地域の歴史に深くかかわったと印象に残る二つの大きな番組がある。

一つ目は 1999 年、浦和局時代に担当した「映像の 20 世紀」である。映像が始まった 20 世紀の最後に、民間に眠る古い映像を収集して国民の財産にしようと発足したこの全局的プロジェクト。筆者もこの事業に参加し、埼玉県内をまわって埋もれていた映像を発掘して番組化した。川口の鋳物業者や川越の商家、秩父の銘仙工場など由緒ありげな事業所を片端から訪ね、古いフィルムはないかと聞いて回った。なかには、代替わりしたがよくわからない物だったので「あなたが来てなければ捨てていた」というものもあった。収集すると次は関係者を集めて上映し、内容を細かく聞き取る。作業を重ねるなかで、映像が持つ情報の豊かさを心底感じることになった。画面の中の人物や、背後の風景、周囲に写る道具など、その地その環境で暮らした人でしか知り得ない事実が満載されている。映像という「目に見える」媒体を介した生活史に、手応えを感じた瞬間であった。

今一つは 2006 年の岐阜局時代に担当した、これも全局プロジェクト「兵士たちの戦争」である。太平洋戦争から 60 年以上経ち、経験者の高齢化が進む中で、兵士として最前線で戦闘に参加した人たちの証言を広く集めようと始まった事業だった。筆者は、南太平洋のニューブリテン島で、玉砕すると大本営に連絡しながら、それに異を唱えゲリラ戦に転じた上官についたことで生き延びた兵士たちを追った。出身者の多い岐阜県はじめ愛知県や静岡県で生存者を探し出し、趣旨を話しカメラの前で経験を聞いた。「今まで誰にも自らの戦争体験を話さなかったが、先ももう長くないので証言する気になった」という人もいた。番組に使った部分を含め編集前のすべての話がアーカイブ化され今でも閲覧できる。「同時期」に、「文字」で書かれた紙史料と異なり、オーラルヒストリーの歴史的価値を低く見る考え方があることは理解している。しかし修羅場に直面した人物がその稀有な経験を思い出しながら話すさまは、その表情や語り口とも相まって、鬼気迫る力で伝わって来る。「証言記録」という分野での歴史に対するアプローチは、筆者の現在の職場である岡山空襲展示室で進める聞き取り事業にもつながっている。

その後も各地の放送局をまわり、最後に赴任した岡山局で 3 年前に定年を迎えることになる。退職間際の 2021 年 2 月、のちに続くテーマとの出会いがあった。市内中区赤坂台の初代岡山放送局舎である。それは、岡山で初めてローカルラジオ放送が始まって 90 年目の節目の時期だった。NHK 岡山局では開局記念特番を企画し、筆者がその制作を担当したのである。取材する中で 1931 年に作られた初代岡山放送局の建物がそのまま今も残っていることを知った。産業遺産学会に所属していた筆者は、定年した後、これがどのくらい貴重なのかを調べてみた。その結果、国内に現存する放送局舎の中では最も古いことが判明したのである。しかし、現在は岡山市が管理するこの建物の前途は厳しい。老朽化が激しく外部の人間の出入りも禁じられ、行政がいつまで維持するかが不透明な状況である。そこで筆者は、岡山の地に「放送」という文化を根付かせたこの建物の価値を広く知ってもらうことこそが自分の役目と思い、大学の講義や公民館の講演、

著書で訴え続けているところである。

西日本豪雨報道の時から、史料ネットの活動は見せてもらっている。歴史資料を救済し次代に残す苦労は想像に難くない。何かを「残す」努力に、勝手ながら共感を覚える。古いものは放っておいたら消え去るだけで、何かしらの働きかけがないと残らない。そうした意味で皆さんの地道な努力に、心から拍手を送りたいと思っている。

《コメント》

松岡弘之（岡山史料ネット）

村上さんのテレビ局での勤務経験や現在の活動をお伺いし、岡山史料ネットのような取り組みを進めていくうえで考えさせられたこと、お聞ききしてみたいことをそれぞれ挙げてみます。

やはり、実に多様な資料を扱われてこられたご経験はとても興味深かったです。家庭に眠る映像、戦争体験の証言、そして近代建築と、それぞれに課題はあるのでしょうが、丹念な掘り起こしの過程をお伺いしていると、みんなで映像を楽しんだり、証言の重みに圧倒されたり、また景観や空間に想像をめぐらせたり…と、人々の生き方を具体的に浮き上がらせることが地域のなかで学び合うためにとても大切なのではないかと思いました。

そのうえで質問したいことは２つあります。１つは局内の企画書を作成されるときに村上さんが大切にされてきたことです。もうひとつは異動も多いなかで「旅人の目」として、地域に分け入るために必要な「力」とはどういうものか、ということです。

《参 加 記》

歴史との様々な関わり方

～元ディレクター・村上裕康さんのお話を聞いて～

内山和有（岡山大学大学院社会文化科学研究科）

映像やインタビューから歴史に迫ることには、文献史学とはまた異なる面白さがあると感じました。それら動きのあるものは、歴史をより活き活きとさせ人々にとって触れやすいものにしてくれるのではないでしょうか。

戦死した大伯父、10代で戦争を体験した祖父母を持つ私にとって、戦争に行った人の生の声を聞くという企画は少し身近に感じられました。本人から話を聞くことは段々と難しくなるため、歴史学で扱うかどうかに関係なく、紙の史料の読み解き以上に急を要することではないかと思いました。

最後に現存最古の放送局の話がありました。歴史的建造物を守るべきだと考えている人は少なくないが、いざ具体的な保存方法の話になると腰が重くなる人が多い。歴史的建造物の保存は、総論賛成・各論反対の構図がはっきりと現れる問題だと気づかされました。保存されるべき理由を訴えるだけでは不十分であり、保存することによって生じる課題についても理解したうえで議論を進めなくてはなりません。簡単な話ではありませんが、自分とは逆の考え方にも精通していることが重要なのではないかと考えました。

活動拠点の移転について

これまで岡山史料ネットでは、岡山大学津島キャンパス内の文法経 1 号館 3 階に活動拠点をおいてきました。耐震工事などの施設整備にともない、約 100 メートルほど離れている旧ボイラー棟が「文明動態学研究所実験棟」としてリフォームされることになり、こちらに 2023 年 3 月に移転しました。スペースは少し広くなりました。多くの方にお越しいただき、活動・交流ができるようになればと思っています。

なお、移転にともない電話番号・ファックス番号が変更となりました。新しい番号は次の通りです。

■ 086-251-7406（松岡研究室）

歴史資料保全活動への支援募金のお願い

被災状況の調査や、被災資料のレスキュー、クリーニング作業など、活動継続のための資金が必要です。募金にご協力いただける方は、下記口座にお振り込みいただければありがたく存じます。

ゆうちょ銀行総合口座（普通口座）
【記号】15470 【番号】38569531　岡山史料ネット（オカヤマシリョウネット）
（他の金融機関からの振込の場合）
【店名】五四八 【店番】548 【預金種目】普通預金 【口座番号】38569531

事務局　〒 700-8530　岡山市北区津島中 3-1-1　岡山大学文学部日本史研究室内
電話　086-251-7406
e-mail　okayamasiryonet@gmail.com
URL　http://okayamasiryonet.s1008.xrea.com/
X（旧 Twitter）@okayamasiryonet

岡山史料ネット Newsletter Vol.10　2023 年 9 月 30 日発行　　編集・発行　岡山史料ネット
記事・写真等の無断転載はかたくお断りします。